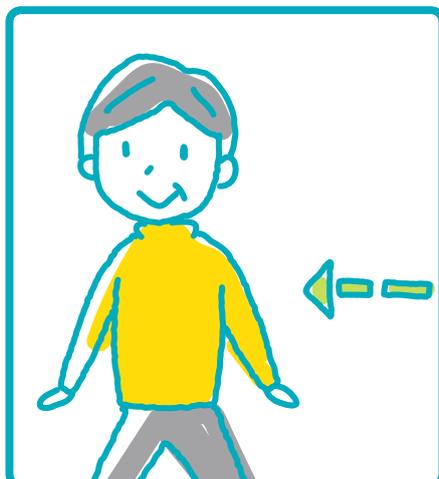


今こそ、
つながろう！

“新しい” 地域福祉活動ガイドブック



令和3年4月

社会福祉法人 加西市社会福祉協議会

今こそ、つながろう

新型コロナウイルス感染症が広がる中、3密（密集、密接、密閉）を避け、うつさない、うつらない行動が求められています。

もしかしたら、福祉活動やボランティア活動など、地域の中で支え合い、助け合うためのつながりを持つことに不安を感じてしまう人もいるかもしれません。

しかし、閉じこもりによる高齢者の虚弱化や、障がいのある人、ひとり親家庭、生活困窮者などの社会的孤立など、地域の課題がさらに悪化してしまうケースも考えられます。

一方で、こんな状況だからこそ、誰かとつながること、誰かに支えられることの大切さが再認識されています。

このガイドブックでは、みんなが安心してつながりを持つことができるよう、地域福祉活動を実施するうえでの感染予防のための基本的ルールや、“新しい”つながり方のアイデアをまとめました。

合言葉は「今こそ、つながろう」

これまで築き上げてきた関係性や仕組みをより深めるとともに、多様な地域課題の解決につなげていくことができるよう、“新しい”地域福祉活動をスタートするきっかけとして活用してください。



「新しい生活様式」に基づく 基本ルール

感染予防のための支援者、参加者の双方が守るべき基本的なルールです。
一人ひとりの日ごろからの意識を高め、感染拡大を防ぎましょう。

身体的距離の確保

- 人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)以上空けましょう。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避けましょう。
- 3密(密集、密接、密閉)をできるだけ回避しましょう。



マスクの着用

- 活動中は原則マスクを着用しましょう。
- 会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合、マスク着用を徹底しましょう。
- マスク着用時、熱中症に十分注意しましょう。



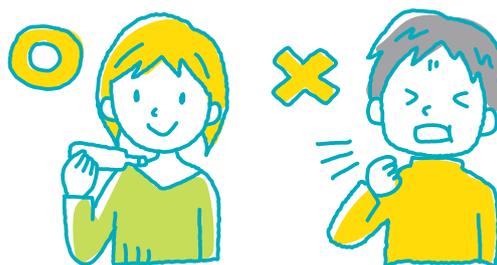
手洗い・手指の消毒

- 活動前や活動中、まめに石けんでの手洗い・手指のアルコール消毒をしましょう。
- 家に帰ったらまず手や顔を洗いましょう。できるだけすぐに着替え、シャワーを浴びましょう。



健康管理

- 活動前に自宅で検温や健康チェックを行いましょう。
- 平熱を超える体温(+1℃程度)がある場合、風邪症状やけんたい感がある場合は参加を見合わせましょう。



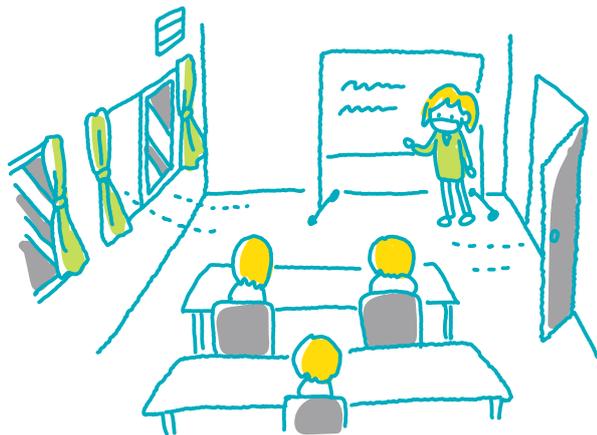
活動の場面別のルール

1 集合型の活動の場合

活動前の準備

感染の危険箇所、場面等の確認

- 接触回数が多い箇所や備品、場面等を洗い出し、特に他者と共有する備品や複数の手が触れる場所を特定します。
- 屋内で行う活動の場合、密集、密接、密閉される場所を特定します。(活動する教室・会議室のほか、受付場所や調理室等の広さや換気の具合)
- 飛沫感染防止のため、歌ったり、大声を出したり、息が荒くなるようなプログラム・場面等を洗い出します。



活動方法・プログラムの見直し

- 感染が起きやすいプログラムの見直しや、感染予防に配慮した備品等の使い方の検討、消毒液、ハンドソープ、体温計、マスク、手袋などを準備します。
- 3密(密集・密接・密閉)を避ける、マスクの着用、手洗いや手指消毒等の基本的な感染防止対策を導入します。
- 教室等の人と人の距離を2m(最低1m)維持するための会場設定、1回あたりの参加人数を少なく、実施時間を短くするなど、感染リスクの低減を図ります。
- 活動場所が窓がない部屋の場合、活動場所の変更を検討します。

参加ルールの設定と周知

- 参加者に発熱(平熱を超える体温(+1℃程度))、風邪症状やけんたい感がある場合は、参加を見合わせてもらいます。発熱、風邪症状、けんたい感がある家族がいる場合も、同様の取扱いとします。
- 参加者にはマスク着用や、咳エチケットの対応、手洗いや手指消毒等の基本的感染症予防対策を徹底してもらいます。
- お茶等の参加者への飲食提供を中止する場合、各自で持参してもらいます。
- 聞こえに障害がある方(聴覚障害、難聴等)への対応として、口元が隠れないようフェイスシールド等に対応します。
- これらのルールをチラシ等で周知し、当日、受付等での掲示や、説明を行います。

活動実施日の取組

活動開始前の取組

- 入口等に手指消毒液、手洗い場にハンドソープやペーパータオルを設置します。
- トイレの電気スイッチやドアノブ、テーブル、いすの背もたれ等を消毒します。
- 人と人との間隔が2m(最低1m)となるように座席を配置します。
- マイク設備がある場合、大きな声を出さなくて済むようにマイク・スピーカーを設置します。
- 当日の参加者を把握するため、名簿を用意します。
- 受付付近に、次のような参加ルールを掲示します。

< 新型コロナウイルス感染拡大予防のためのお願い >

【例】

- ① 体温計で体温を測ってから来所ください
- ② 咳エチケット・マスク着用をお願いします
- ③ 入室の際は手指の消毒をお願いします
- ④ お茶の提供はお休みしますので、飲み物は各自でご持参ください
- ⑤ 密集しないように入室制限を行う場合があります

活動中の取組

- 受付で参加者に発熱(平熱を超える体温(+1℃程度))や風邪症状、けんたい感等がないか、体調確認を行います。
- 参加者に咳エチケットやマスクの着用、手洗い(手指消毒)、十分な身体的距離を保つこと等の徹底を促します。
- 活動中は1時間に2回以上の換気(2方向の窓を1回数分程度全開にする等)を行います。
- 重点的に消毒する箇所を活動中にも適宜消毒します。
- 熱中症防止のため水分補給に気を付けます。



活動終了後の取組

- マスクや手袋を着用して会場を清掃し、ごみの廃棄を行い、会場、備品等を消毒します。
- 作業後は手洗いを徹底し、帰宅後の手洗いも促します。

サロンやその他
つどい場の運
営者からの声

町内のサロンの中止が続いて、人としゃべることが減多になくなり楽しみが減った。人と顔を合わせておしゃべりする機会や繋がれる場はやはり地域には必要だと思う。

2 訪問型の活動の場合

活動前の準備

感染の危険箇所、場面等の確認

- 各戸訪問、面会時に玄関ドアやインターホン等の手指が触れる場所、対面する場面等を確認します。

訪問活動の方法、手順等の見直し

- 活動の方法、手順、準備する備品等を見直します。
- 訪問による見守りが必要な場合でも、短時間に効率的に行えるよう、手順等を事前に見直します。
- 部屋への入室は極力控え、玄関ドアや窓越し、インターホン越し等が可能か検討し、入室する場合も長時間にならないように手順を見直します。
- 手紙や電話、メール等の訪問によらない方法も検討します。



訪問ルールの設定と周知

- 対象者に発熱（平熱を超える体温（+1℃程度））、風邪症状やけんたい感がある場合は訪問を見合わせます。発熱、風邪症状がある家族がいる場合も、同様の取扱いとします。
- 訪問活動を実施する際には、手指消毒を徹底し、マスク着用、咳エチケットの対応、適宜換気を行うこと等をルール化します。
- 対象者にはこれらルールをチラシ等で周知するとともに、必要に応じ、訪問時に説明します。

訪問中・訪問後の取組

訪問中の取組

- 訪問後、発熱（平熱を超える体温（+1℃程度））、風邪症状やけんたい感等がないか、対象者の体調確認を行います。
- 発症者が出たときのため、訪問者名簿を作成します。
- 居室内での活動中は、1時間に2回以上の換気（2方向の窓を1回数分程度全開にする等）を行います。
- 会話の際は、咳エチケットやマスクの着用、正面に立つことをできるかぎり避け、十分な身体的距離を保つこと等を徹底します。

訪問後の取組

- 訪問活動終了後、手指消毒、手洗いを徹底します。
- 帰宅後の手洗いを徹底します。



3 活動の種類別の対策

高齢者や障がい者を対象とした いきいきサロン、通いの場、子育てサロン

- 歌を歌うときは、大きな声になりがちです。コロナの収束までは、歌をできるかぎり控えます。
- 屋内では息が荒くなる運動は避け、飛沫感染を防止します。晴れた日には屋外の散歩、体操等を組み合わせます。
- 休止することで利用者の体力低下につながらないように、地域の感染状況等により再開が難しい場合、チラシ等を活用し、自宅で運動できる資料等を配布・周知します。



見守り、訪問活動

- 見守り、訪問活動でも、手洗い・手指消毒、咳エチケットの徹底を図ります。
- 外出自粛が長期化し、人に会うことに恐怖を感じている人もいます。ドアやインターホン越しに声を掛けたり、手紙等を置いて様子を見る等、無理に扉を開けないようにします。
- 地域における感染の状況によっては、電話・はがき・メール等による対応を積極的に活用し、対象者との接触の回避に努めます。
- 気になるケースがあれば市社協に連絡するよう徹底します。

移送サービス

- 車の中は密接になりがちです。乗車中はマスク着用を運転者、利用者双方に徹底し、窓を常時開け換気します。
- 運転者と利用者の座席間隔はできるだけ身体的距離の確保がされるように着席してもらいます。
- 移送サービス終了後は十分に車内の換気を行い、利用者の接触頻度が高い場所（ドアや背もたれ等）を消毒します。



ボランティア団体からの声

この1年間、地域で活動したり、活動を披露する場が大幅に減ってしまっただけで、感染予防の対策として、消毒やマスクの着用、参加者の名簿を作成するなどの工夫をして活動を継続する為に、工夫をしている。

サロンやその他つどい場の運営者からの声

コロナ禍だけど、活動は継続してきた。感染予防対策を行いながらできる活動を続けていくことが必要だと感じている。

これからのつながり方のアイデア

電話・手紙等でのつながり方

通いの場への参加促進や訪問による見守りが難しい場合、電話による安否確認やコミュニケーションが有効です。顔を合わせない状況の方が、困っていることや不安なことなど、本音を聞き出しやすいかもしれません。



メッセージカードなど、手紙を使って情報を届けることができます。ポストに投函する際に、家の様子をみたり、インターホン越しに会話することで、状況確認も可能です。



オンラインでのつながり方

活動の担い手や参加者間でLINEグループを作るなど、ICTを活用したコミュニケーションがますます重要になります。「既読」がつくことで返事がなくてもメッセージが伝わっていることがわかり、安否確認にも活用できるかもしれません。



コロナ禍の中、Zoomなどのオンライン会議ツールが普及しています。集まらなくても顔が見える環境でコミュニケーションでき、これまで通いの場に来れなかった人とも関係を深めることができるかもしれません。



参考資料

- ・「新しい生活様式」の実践例 厚生労働省
- ・「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して通いの場等の取組を実施するための留意事項」厚生労働省
- ・「新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方」社会福祉法人 全国社会福祉協議会

“新しい”地域福祉活動ガイドブック

発行：社会福祉法人 加西市社会福祉協議会 令和3年4月
〒675-2303 兵庫県加西市北条町古坂1072番地の14
TEL:0790-43-1281 FAX:0790-42-6655